



- このたびは、当社製品をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様への危害や損害を未然に防止するものです。表示記号の内容を良く確認したうえで本書の内容（指示）にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号

記号の意味



警告

- 取扱を誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。



注意

- 取扱を誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容または物的損害のおそれがある内容を示しています。

<施工の前に>



警告

- 本製品は隣地との境界を目的に設置するものです。転落防止を目的とした防護柵・歩行補助を目的とした手すり等として使用しないでください。
- 危険な場所への設置はしないでください。
- 事故や故障の原因となりますので、むやみな改造・仕様変更はしないでください。



注意

- 正しく施工、組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。
- 本製品の施工にて、フェンス板材の現場カットした場合は別売「小口用塗料セット」が必要です。使用しない場合、フェンス板材の腐食・割れが生じやすくなります。

<ヒバ材の管理について>



注意

- 納品されたヒバ材は、速やかに開梱してください。
- 直射日光や雨、雪がかからない屋内に保存してください。
- 長時間放置しないでください。反り、曲がりの原因になります。

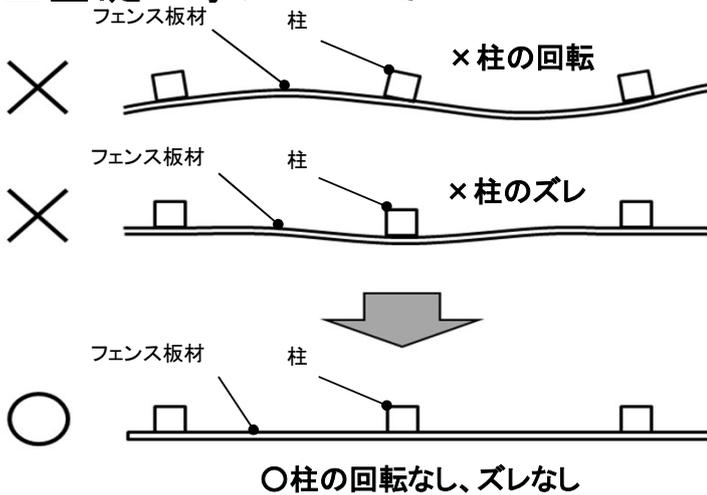
<施工上のご注意>



注意

- 強い衝撃を与えないでください。変形やキズの原因となります。
- 火気があると燃える可能性があります。火気は近付けないでください。
- 柱のピッチは柱芯々900mm以下で施工してください。それ以上離れると耐風圧強度が大幅に低下します。
- 柱にV溝がある場合、V溝がある面が板を取付ける面になります。柱の施工向きにご注意ください。
- 本製品の取付については、本体に同梱されている取付説明書をご確認ください。
- 柱は施工現場の状況（風圧など）を考慮し、指定以上の角・肉厚で十分強度を確保した柱をご使用ください。
- 天然木のため、1枚1枚の個々の質感の差や色差・色ムラ・木目の差・多少の節があります。
- 資源有効活用の観点から、節の破損部はパテ埋め、にて補修を行っております。
- 腐食性ガスや海水、あるいは砂塵にさらされるような環境や、積雪地帯で使用する場合には、設置場所の環境を十分調査の上ご使用ください。

■基礎工事について



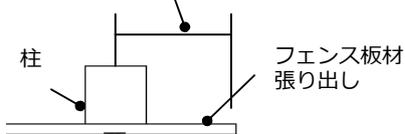
⚠ 注意

- コンクリート(またはモルタル)には、塩分を含む砂(海砂)および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤(凍結防止剤・凝固促進剤・急結剤)などは使用しないでください。アルミなどの金属が腐食する原因になります。非塩素系または非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- 指定埋込寸法は必ず守って施工してください。

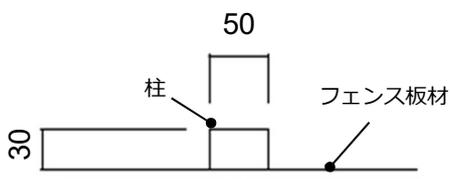
⚠ 注意

- 板材取付面が直線になるように柱を設置してください。板の曲りの原因になります。
- 柱が完全に固まってからフェンス板本体を取付けてください。
- 柱のピッチは、柱芯々900mm以下で施工してください。
- 両エンド部の柱は下図の様に施工して板材を張り出すと美しく仕上がります。

板の張り出しは、柱芯~150mm以内としてください。



- 柱は必ず垂直に施工してください。
- 柱の埋込寸法は必ず守って施工してください。強風による飛散・倒壊事故の原因になります。
- フェンス板本体に同梱している取付説明書をご確認ください。
- 50×30角柱の場合は、50の面にフェンス板材を取付けてください。

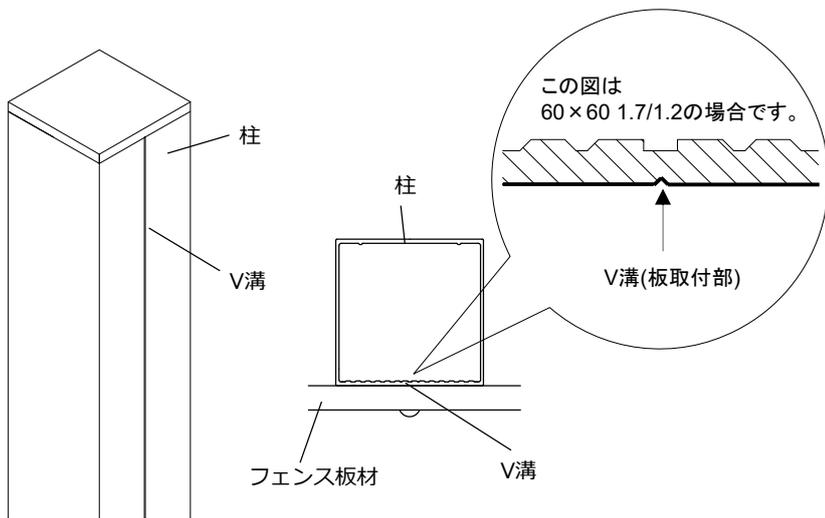


■施工手順

1 柱の施工

アルミ型材柱

サイズ (mm)	規格長さ L(mm)	柱GL上許 容 寸法H(mm)	埋込寸法 C(mm)
50×30(t=1.5/1.2)	990	800	190
	1,190	1,000	190
	1,390	1,200	190
50×50(t=1.5/1.2)	2,000	1,600	400
60×60(t=1.5/1.2)	2,300	1,800	500
60×60(t=1.7/1.2)	2,500	2,000	500
70×70(t=1.8/1.2)	3,000	2,500	500



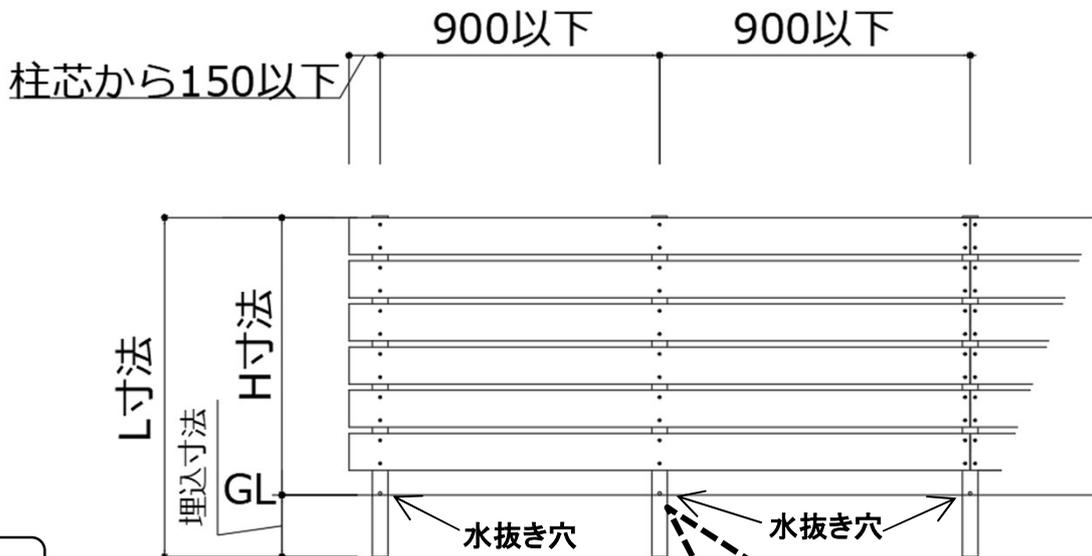
注意

●V溝がある場合、V溝がある面が板を取付ける面になります。柱の施工向きにご注意ください。

サイズ	V溝の数
50×30	1ヶ所
50×50	1ヶ所
60×60	3ヶ所
70×70	3ヶ所

●V溝は柱の角数で異なります。

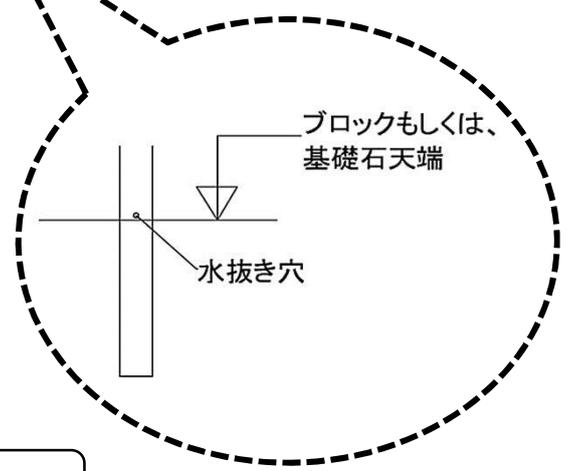
2 水抜き穴の加工・基礎コンクリートの打設



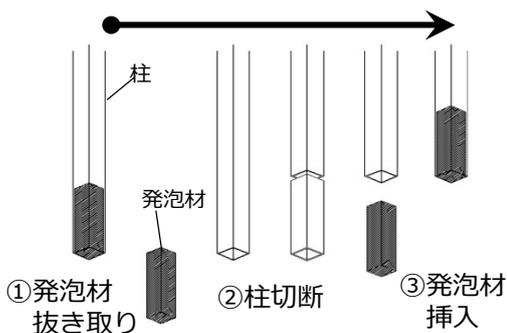
注意

●必ず柱に水抜き穴をあけ、柱穴に柱を立て、モルタルを打設してください。

※モルタルを打設後に柱を立てると柱内部に水がたまり、凍結破損の原因になります。



3 柱の現場切詰めとブロック施工について



L1390以下のブロック施工可能な柱には、柱脚に発泡体を挿入しています。柱の切詰加工をする際には、発泡体を抜取ってから切断加工し、再度挿入してください。

注意

- ブロックまたは基礎石施工の場合、発泡体のない状態で柱を施工すると凍結破損の原因になります。
- 高さH1200 (L1390) 超はブロック施工ができません。
- 高さH1200 (L1390) 超の場合、基礎石の施工は避け、独立基礎施工としてください。



HANATECH
GARDENS